

12月12日 朝礼にて 教頭講話

今日も、校長先生が出張ですので、代わりにお話しをします。今日は「言葉」のお話しです。言葉には、不思議な力があります。それを、「言霊」といいます。どんな力かという、口から出したことが実際に色んなことをしたり、変えたりするということです。たとえば、いいことを言い続けると実際にいいことが起こります。逆に嫌なことを言い続けると残念ながら嫌なことが起こってしまうということです。

みんなは、優しい言葉や励ましの言葉が友だちを元気づけることを知っていますね。逆に悪口や嫌な言葉で相手が元気をなくしてしまうことも知っています。でも、言った言葉が一番返ってくるのは自分自身です。友だちを元気づけるよい言葉を口にしてている人は、嫌なことにも立ち向かえるんです。逆に悪い言葉を口にしてていると、自分に返ってきてしまう。そんなことがあるということです。

もう一つ、この前、児童会長さんが愛知県に避難している人に寒中見舞いを送ろうの会に行ってきたくれました。愛知県には、東日本大震災で被災して、避難してきている方がたくさんいらっしゃいます。ふるさとを離れて寂しい思いをしておられます。そんな方たちを励ます寒中見舞いの手紙をお渡しする会です。それには、6年生のみんなが参加してくれました。6年生が書いた励ましの寒中見舞いを会長さんが持って行ってくれました。これは言葉の中でもよいものですね。では、あま市の小中学校の人たちの作品を含めて、その中のいくつかを紹介します。

これを見て、みんなの心が少しでも温かくなると思います。